

愛で溢れた笑顔のために

岐阜市立長森中学校 3年
平工 芽奈(ひらく めいな)

『私、保育士になってみたい。』

小学生の頃の私の夢は、保育士になることでした。でも、そう口にするとも保育士はやめておいた方がいい、と大抵の人は私に言います。なんでなんだろう、と当時はずっと思っていました。だって、私にとって保育士はキラキラしていて憧れの職業だったから。

私は保育士が大好きでした。私の先生は延長保育システムと呼ばれるシステムだった私に、夜一人で残る時間を寂しい時間にさせないように運動会の手伝いをさせてくれました。先生と過ごした時間、先生と見ていた景色、今でも鮮明に覚えています。愛されて育ったという懐かしさと一緒に感じられる私のあたたかい思い出は今でも一生の宝物です。

卒園を控えた頃、私にとって忘れられない出来事が起きました。隣のクラスの先生が突然、20代という若さで命を失ったのです。私にとってあまりの衝撃でした。まだ小さかった私は、泣きじゃくりながら、「先生どこ行ったの?」「私もお葬式出たかった。」そんな事を言っていた記憶があります。担任の先生は私に、『いっぱい泣いていいから。笑顔でまたねって言おうね。』と声をかけてくれました。先生は私なんかよりももっと辛かったはずなのに、私のために笑顔で接してくれる姿が、今思い返しても強くて、かっこよくて、私の憧れの姿でした。

しかし、私の今の将来の夢は保育士ではなくなっていました、正直、自分の人生のことを考えるとブラックな職業、と言われている保育士を将来の夢として選ぶことができなかったからです。コミュニケーション能力、知識、観察力、忍耐力など、様々なことが求められる保育士。保護者からの要求も多く、中には昼寝をさせないでほしいというクレームや、運動会と出勤日が被っているから日にちを変更してほしいというクレームまであるそうです。私はそこに、大きく2つの原因があると考えました。1つはマスコミの影響です。子供を殴った、蹴った、閉じ込めた、怒鳴った。そんなニュースは全国的に広まり、保育園への悪い印象につながっています。そしてもう1つの原因が、「少子化」です。今の時代結婚をしない、子供を産まない、という選択肢もあり、生まれてきた我が子を大切に、大切に育てています。だからこそ保育園に預ける時に、子育てへの不安や不満を保育士にぶつけてしまうことがあるのかもしれませんが。しかし、保育士も心の余裕をもって働ける環境をつくらないと、もっともっと人手不足は悪化し、その結果、子供達にも影響を与えるのではないのでしょうか。

人格の土台は、3歳までに形成されると言われています。「三つ子の魂百まで」ということわざがあるように、昔でも今でも幼少期につくられた人格、そして考え方は、人生に大きな影響を与えていると言われています。挑戦できる。頼ることができる。思いやりがある。これからの社会を支えるのは、そんな豊かな心を持った子供達なのではないのでしょうか。保育施設の整備により、「子供がほしい。」そう思っている大人の背中を押せるのかもしれませんが。職場環境や給料を見直せば、保育士の人手不足も解消されるかもしれません。未来の日本を守れるのは今しかありません。すぐに動き出し、子供たちの笑顔を守りませんか。『私、保育士になる。』そう言える人を増やしていくために。